

シンガポール発日本クルーズ乗船記(2)

シンガポールでシップウォッチング

2023-7-31 池田良穂

前回は、シンガポール海峡を横断して、シンガポールとインドネシアを結ぶ高速旅客船を紹介しましたが、シンガポールでは大小様々な船を見ることができます。客船の数は、高速旅客船を除くと多くはありませんが、滞在中に「ゲンチン・ドリーム」の入港シーンを見ることができました。



シンガポールのマリーナベイ・クルーズターミナルに入港した「ゲンチン・ドリーム」です。マリーナサウスピアから出港する島周りフェリー兼観光船に乗船して撮影しました。



マリーナサウスピアに入港する島周りフェリー兼観光船の船上からの撮影です。隣のクルーズターミナルに停泊する「ゲンチンドリーム」の姿が綺麗に見えました。



マリーナサウスピアの港内に停泊する通船群です。シンガポールの沖に錨泊する大小さまざまな船へ船員を運ぶ業務についています。



マリーナサウスピアを発着する島巡り兼遊覧船です。2社が運航しており、ほぼ1時間おきに出港しており、セント・ジョン島とクス島に寄港して約1時間半で戻ります。料金は15シンガポールドル、約1800円でした。



宿泊したシャングリラ・ラサ・セントーサリゾートからは、世界最大のコンテナターミナルの東端の岸壁が一望できました。



コンテナターミナルには大型コンテナ船が頻繁に出入りしているのを見えました。



コンテナターミナルを背景にハーバーフロントに出入りするインドネシア航路の高速旅客船を頻繁に見ることができます。



沖に浮かぶ島のいくつかは石油コンビナートや、タンクの並ぶ備蓄基地になっており、シンガポール本島と島を結ぶカーフェリーや高速旅客船が見えました。



沖の石油備蓄基地の周りには錨泊するタンカーが所狭しと停泊していました。大型タンカーで石油を運んできて、精製して近隣の国々に輸出することで外貨を稼いで経済を成り立たせていることがわかりました。また、大型の給油船が船舶に燃料を売るのも大きな商売になっていることがわかりました。セントーサ島のケーブルカーからの撮影です。



セントーサ島のケーブルカーの中からの撮影で、沖合の石油施設の島と、セントーサのビーチの対比が面白いと思いました。ビーチの先にはオイルフェンスが張られています。



港の中はレジャーの場としても使われていて大型のカヌーも走っていました。